替十組香之書

ヲ 多9
1338
23

門 ヲ 多
1338
巻 23

早稲田大學圖書

第一香

香四種

一とて　三包宛出候

二とて　右同断

三とて　右同断

壱包聞一包試

客して

右試香終りて出香十包打交炷出し
最初より一炷聞して札打柄ハ十炷香
のことし打記まゐるなり但客香斗ニて
正の札を打要なり記録は本香を先ニしるし

書付終しの事ハ扇して書付不出して不
出まして最初一の札の時ニ毛ある(に)
一の札多ハ先ニ書付有て後其香亭
なり付実初の上ニ書付為記録の面ニて
客要

花ニ雪月花香を一種
聞してましるなり

一
二
三
ウ

第一香之記

二三三ウ二一三一二一

名札
一二二　二一　一
五

名札
二二ウ三二　三
六

名札
一二二ウ一三二三一三
十全

月
日

第二香

香五種

一ゝとして　二包ツヽ試

二ゝとして　右同じ

三ゝとして　右同じ

四して　右同断

五して　右同断

右十包を試に最初より打交かた記紙
あり点法十炷香のことし　記録左に記す
其記紙多くは此中にあり
此紙二種十炷香にもあり

第二香之記　一　二　三　四　五

三一一四五三二二四五

名　一ヽ二三三四ヽ一ヽ五ヽ五ヽ二四ヽ　六

名　一ヽ二ヽ二ヽ三ヽ四ヽ一ヽ五ヽ五ヽ三ヽ四ヽ　十全

月日

才三香

有試十種香之組

右最初先出香十包を出試ニ十炷香の如し

出しおいて後一二三の試香を出ス此試三種

きゝ終て始十炷香ニ一の札を打まゐらせて試

其たゝきハ三まて又二の札ならハ一より
三の札ならハ二まで如此三一二めくる後
客香出るときハ一二三客の文字を紙
紙に書付置て又客より一二三の内出て札
打ちるたゝきて客二香めに出るを知れ

記録に三客一二札を書付出すなり尤ハ皆
全の字の半なり右二客三の文字ハ始十
炷の字の下に四字書付る也一二三客の文字
をし始たゝき全の字をそへ試香遠へハ也
にあるまし是も本閑不有て没なる

点法あり立よりて　香の数大切ニ守り
然して後　一二三各ニて名を結ひて又
始の中あしき時ハ全ニ不成ありとかく
前後　捨りすれハ前ハ不成　又前後
捨ハ札打後　記紙得ニ打ハ不当

様記録の面にて香ハ書　試組香ハ吹其納除　香と云

一　二　三　ウ

才三香之記

二三三ウ一二三一一二

札点

一ヽ二ヽ二ヽ三ヽウヽ一ヽ二ヽウヽウヽ一ヽ　二ヽ三ヽウヽ一ヽ　十三全

札点

一ヽ二二三ウ一ヽ二ウウ一ヽ　二ヽ一三ウ　三

札名

一二三三ウ二一一 二三 二三ウ一

月日

求四香

香四種

一として 一包ゝ係ヲ試

二として 二包ゝ係ヲ試

三として、 三包ゝ係ヲ試

答之　　四包ハ試無之

右十包打交炷出し申候いつれも試なれ
は一は一ツ二は二ツ三は三ツ答は四ツの
数ニ而正中なき当りたる尤中路の記識り
書付出し申候点法ニ外正中なれたる

別ニ記す事但記録の面にて記候
試紙香ニ而三種
加客香にて記す
一
二
三
ウ

第四香之記

ウ二三一ウ二三ウウ三

名
ウ\ 二\ 三\ 一\ ウ\ 二\ 三\ ウ\ ウ\ 三
十全

名
ウ\ 一 二 三 ウ\ 二\ 三\ ウ\ ウ\ 三\
七

十五香

香五種

一二三四五各二包つゝ但試

先試ミ一二三四五右包つゝ打交炷

終テ又残り一二三四五の五包を打まぜ

月

日

焼出し 右十包終て紙に書付出し候

事済候へは先始五包を本香にて文出し

出たるに 二五三四一と出候は捨之事

又は出候は 一二三四五と書付るも記録書

前紙え何にても出候は 一二三四五と云なり

次は本香 五一四三二と出れは 右一二三四

五と見合書付出候 為記録の図如左

此組香は三指組之内

時香なり

一 二 三 四 五

才五香之記

二五三一四

五一四三二

名
一二三四五
二四五三一
十全

名
一二三四五
二五四三一
六

月日

求六香

香四種

一として　四包ニ拵内一包試

二として　右同断

三として　右同断

三色之係之式

答として

右常の通り一二三の式にして 投出香十二包
打交せ内六包ハ中より試に合札をうち
終りて後の六包を何にても残りとなして組
紙に書附出す 其者若先組紙の残香を記録

によつて組ハ出香 三ウウ二ウ三と出たる時
残りを一一二二三と書 捨の香を除き 投落し
の札の中より少し間を取 下に書 扨出香
先残りの香を聞き 上に書 同出香を下る
書割 出香の上の残り香ハ次第を不構

乱ニ書事ハ点法ニ先下より拙事ハ下の字
をもつて上より点かき可ル也 尤記録の時も是ニ
准ス 此組香ハ和漢六種香也
右六香之配 一 二 三 ウ
ウ二ウ三三ウ 三一一二二

名 二三三ウウウ 三一三二一 十二全
名 一二二二三三 三一ウウウ 五
名 二二三ウウウ 三一二一三 九
月 日

一　弁七香

香四種

一二三各三包了〆候

客として一包侭〆候

先十炷香之内一二包二同三同客一包以廿文

除置残一二三にて常の試香として打まぜて
乱しておき最初試香三包を炷出す 其ハ常の
試香にて遣ひ一二三 右打まぜて出す也一二三
ともにうちまぜて出すべし
初中後のうちに出すなりそを試して右
終て一二三二包つゝ六包に客一包入七包

打交炷出す 初試にもれし無試ある
札の打様に十炷香の通なり 但し無試あり
ても得せしむ也 初の出香より終迄
の通紙へハ三の香にても又二の香にても共
初より打取り 但客香を試せしむ也 試

三種の内ニてきハ元より初より出香し
むウち何れも出れ共し以前ニ外
一二三の六包を二炷つゝの跡ニ而出香
記録ニて七炷斗へ出て始の之種を試と
すれハ出捨る香ニ先ニ常の十炷香始

三種を記共一二三の香おりませて出して試
ゆして出して以前ニ出る記録の通りニて
合記ニ出る
試組香ハ七炷香を十炷香として
試の試ニ出る香ニ除く組事

第七香ニ記
一
三三
ウ

試香之
二
一 三
三二ウ一二三三一

札 名　三ヽ一ヽウヽ二ヽ一ヽ三ヽ二ヽ　七全

札 名　三ヽ二一ウヽ三ヽ二ヽ　四

月日

第八香

組法十種香之通

先試香三種ニ客の通向の如く出香

十包打交二包除キ八包炷出ス右出香

炷やう先試香不炷して出香二包炷出

三番目ニ一の香と試出る 次又出香二炷
焚出し 六番目ニ二の香の試て出るなり
次又出香二包炷出して 九番目ニ三の試香
と出す 次又出香二包炷て 跡よりの札
打かへて 出香二炷目くりて 折居二つ

出す但し 隠し札打かへて 最初と天十枚
香の如し 一の札と入 二炷目 同香なりて
同し 一と入 ちかひあらハ 二の札と入る之
其まゝ焚 十炷香のことく 打まぜて 但
一二三の時 二種残る時は 其香客香

三種香ハ一二三の試済て後客出しうらて
請文ハ右の札を出す事して試香出香の中
三ノ字入候事を候也二枚つゝ直しかへり候之
不記録の内にて名を記事し試出香の記録ニ名を書也
を記すへしと云
記者香にて試有
十種香なり

ウ
三
二
一

赤八香之記　八全

三二二三三ウ一

札名
一二二三一ウ三

札名
一三三ウ三一二　二

月日

求九香

十炷香を組

先最初客香を除並一二三九包をとり

其内一包のこし置八包に客を入左のことし

焼あそん

一の香抜て附て　一二三と　一結　二一二と一
結ひ　ウ三三と一結ひ
二の香抜て附て　一二三と　二結　一二一と結
三三ウと一結ひ
三の香抜て附て　一二三と　一結　三一一と一結

二二ウと一結ひ
右三包て三ッまてハ　結ひあて打交一結
て焼出す事済て　一折居大枚一所よ
出す札入経て　太結合よして前後の書
そ外れとも包み　汎紙包みす　似香

の意をもちて時香合まゐらせ候

試みぬれば折居を用ひ時香記る也

此組は常盤香の
つかはしてしるし侍り

求九香之紀

一　二　三ウ

三三ウ一三三一三一

札名

札名

三一三一三三二二ウ　三

三三ウ一三三一二一　九全

月日

求十香

組法十炷香之通

常之通十炷香十包并交炷出香作し試みの出香札を入れ後字直打て二番目の香より札を入れ此二番目を常の十炷の

最初のこし先何ともし一を入それより九番目
までも常の試札の通りにて札を書終りて
十香めは始の一出香札を入れ始終此一の
香を不覚にて客香と書違なり又一二三の
香も此一を不覚ハ札書違なりこれらも大と

のちへて十炷付元の字を通して書あり
此組ハ極香を客之又さ様く左のごとし
[illegible]一陽香[illegible]

第十香之記

一 二 三 ウ

三二ウ一一二三二一三

名札
三一二三三ウ一ウウ一
七

名札
ウ一二三三一ウ一三ウ
十全

右琴十絃聞書当流本書ニ相違
無他見有之間敷者也

月日

方外收拾心猿之法門

於塵內尋覓無為[illegible]無[illegible]